

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和4年度 第1回米原市社会教育委員会会議
開 催 日 時	令和4年10月28日（金）午後7時00分～午後8時55分
開 催 場 所	市民交流プラザ スタジオ310
出席者および 欠席者	出席者：大谷委員、上田委員、谷口（嘉之）委員、富田委員、谷口（絹代）委員、 塚田委員、川崎委員、日置委員 事務局：教育部 口分田部長、生涯学習課 中村補佐、北村主事 欠席者：伊藤委員、北澤委員、金澤委員、田中委員
協 議 事 項 等	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの取組内容および視察報告 ・コミュニティ・スクールの改善案
結 論 (決定した方針等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの現状と課題の把握を行った。 <p>主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの認知度 コミュニティ・スクールの事業評価 次世代の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・委員から提案された改善案について、事務局で取りまとめを行うことを決定した。 <p>主な提案内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもアンケートの実施 事業評価（PDCA サイクル）の実施 学校に地域交流の場を作る コミュニティ・スクールの発展段階の明確化 など
協 議 経 過 ・ 概 要	<p>1 開会</p> <p>※過半数以上の委員が出席のため、本会議の成立を報告 （開会時12人中7人、途中から1人参加）</p> <p>2 部長あいさつ</p> <p>3 協議事項</p> <p>事務局：令和4年度のコミュニティ・スクールの事業について、資料1を元に説明する。各学校のコミュニティ・スクールの目標と目標達成のために実施、計画された事業について一覧にしている。いずれの学校も地域愛や自己肯定感を目標としている。特徴的な事業については、資料1-1に記載している。資料2については、令和3年度からの活動内容を記載している。令和3年度は学校運営協議会の視察、令和4年度はコミュニティ・スクールの行事を視察している。視察内容について、委員から報告をお願いしたい。</p> <p>委 員：息長小学校に視察に行った。天野川についての事前学習を、地元講</p>

師が実施したが4年生には少し内容が難しく感じた。観察会は天の川土地改良区の職員はじめ多くのボランティアスタッフが参加され、子どもの質問に細かく対応されていた。地元の自然の豊かさを知ることができ、いい学びの場であると感じた。

委員：息長小学校の岩脇散策に参加した。列車壕や善光堂について、地元の方3人が講師をしていた。内容が少し3年生には難しいと感じたが、列車壕の洞窟や、山の上のお寺は魅力的で、子どもの印象に残ったのではないかと感じた。

双葉中学校の人文字（絆）作成に参加した。地域の方がボランティアとしてドローンで撮影をしてくれていた。生徒が中心になって事業を考え、その後地域の方が応援してくれた事業で、生徒の主体性が素晴らしいと感じた。

委員：今年度から河南学区の学校運営協議会の委員になった。事業を実施するにあたり、教師の負担が気になる。地域に任せられるところは任せてほしい。花いっぱい運動の水やりを地元のボランティアにってもらうことで、地域の居場所にできないか企画。現在ボランティアを募っている。

委員長：息長小学校の天野川学習に同行した。学校から天野川まで歩いて移動した。河川の形状、植生、生物について現地で学習した。校長が直接引率などの対応をしており、学校の負担の大きさを感じた。

事務局：柏原中学校の防災訓練については、多くの外部講師を依頼し、デイサービスの高齢者を避難者として受け入れる事業で、生徒の学びとしてはまとまった良い事業であるが、地域の方の受け入れを増やすほど教職員の負担が大きくなるとの意見があった。

伊吹小学校の伊吹大根栽培の学習は地元講師が9年目ということもあり、とても良い授業であったが、今の講師が居なくなった場合、世代交代ができるのか、次の講師が地域から出てくるか心配になった。

委員長：視察報告を受けて、現在のコミュニティ・スクールの良い点、悪い点改良案などを付箋に書き出して模造紙に張り出して欲しい。

○良い点

- ・地元講師がとても熱心
- ・教師子どもボランティアの交流ができる。
- ・地元講師が地域をよく理解している。

○悪い点

- ・学校が主体となっているため教師の負担が大きい。

- ・コミュニティ・スクールについて地域の認知度が低い
- ・学校からは地元講師に注文が出しにくい
- ・教員と地元講師の連携不足
- ・子どもに教師の大変さが伝わり、逆効果になってないか。

○改良案

- ・コミュニティ・スクールの事業評価が必要
- ・学校を地域の居場所にして人材同士が会えるプラットフォーム化する。
- ・地域に対しコミュニティ・スクールの認知度を高める。
- ・教員のコミュニティ・スクールの理解度を高める。

○感想その他

- ・学校運営協議会で目標の協議がされているのか
- ・地域人材の次世代がいるのか心配
- ・事業をやったことに満足してそこで終わっていないか
- ・コミュニティ・スクールの発展段階の明確化が必要
- ・地域人材の育成とネットワーク化の仕組みづくり
- ・自然観察会、防災訓練は学校地域双方が連携の手法を学べるので有効である。

○論点とすべき意見を整理

- ・コミュニティ・スクールのPR（可視化）、理解度を深める。
- ・コミュニティ・スクールの発展段階を明確化し事業評価を実施する。
- ・地域の居場所、ボランティア（講師）同士の交流
- ・子どものコミュニティ・スクール（企画）への参加

委員長：以上の意見を参考に、多世代交流型コミュニティ・スクールに発展するために、社会教育委員として、取り組むこと、取り組めることを付箋に記載し、模造紙の表に張り付けてください。

○内容

- ・ルッチまちづくり大学の活用
- ・コミュニティ・スクール事務の一元化（事務職員の配置）
学校が業務過多で困っている。事務職員を雇うなどして事務を一手に担い学校負担を軽減できないか。
- ・子どもからコミュニティ・スクール（地域）の評価
- ・アンケートの実施（経年変化を確認できるように項目を統一）
アンケートにより子どもから事業の評価を確認する。子どもの成長とともに評価も変わる可能性がある。小学校1年生から中学校3年生まで継続したアンケートにより子どもの求めるものの変化を確認する。
- ・子ども司書、子どもラジオ局の実施

